



表紙:

東京大学－JICAガーナ国際協力パイロットプログラム
(写真提供:国際協力機構(JICA))

裏表紙:

東京大学－アジア女性大学(Asian University for Women)
合同サマープログラム

東京大学グローバル教育センター 2024年度活動報告

発行 2025年12月

編集発行 東京大学グローバル教育センター
113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

Email intl-edu.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

URL <https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>



東京大学グローバル教育センター 2024年度活動報告



国際化教育の 全学プラットフォームとして

東京大学グローバル教育センター (UTokyo GlobE) は、現代そしてこれからの流動的な世界において多様な人々と共に生き、平和でインクルーシブな社会の構築に貢献し、世界の舞台で活躍するグローバルリーダーの育成を目指して、2023年4月に誕生した学内共同教育研究施設です。

GlobEは「国際化教育の全学プラットフォーム」として、学部や専門にかかわらず、国内学生・留学生を含む東京大学のすべての学部学生・大学院学生に、さまざまな教育プログラムを提供しています。世界各地への長期・短期留学や、英語や他言語を媒体として国内学生と留学生が共にキャンパスやオンラインで主体的に学ぶ授業、学生主導型の各種プロジェクトなど、学生がグローバル体験を積み、多様な視点や感性を身につけるためのサポートを行っています。今まで多くの学生が留学してきた北米やヨーロッパ、東アジアに加え、これまで東京大学の学生が学ぶ機会の少なかった南アジア、アフリカなどといった地域での学びや、そうした地域出身の学生とのキャンパスでの交流をとくに奨励します。日本各地でのグローバル体験活動もこれから展開していく予定です。

また、GlobEの教育プログラムに携わる教員は、国籍・人種・民族・ジェンダー・年齢などにおいて多様なバックグラウンドをもち、理工系から人文社会系までさまざまな分野で第一線の研究活動を行いながら、インタラクティブな学習に熱意を燃やす、トップレベルの教育者です。こうした教員のもとで学ぶことで、学生は東京大学のキャンパスにいながらにして、グローバルな教育を体験し、主体的に発信し議論を深めるための知識やスキルを身につけることができます。

さらにGlobEは、東京大学で学ぶ海外からの留学生が教室の内外で実り多い時間を過ごし、国内学生と留学生が絆を深め互いから学ぶことができるよう、他部局や関連部署と協働しながら、オープンでインクルーシブなキャンパス環境づくりをリードします。

2024年度を振り返って

GlobE創設から2年目の2024年度には、国際化教育の全学プラットフォームとしてのミッションを実現するためのより多角的な活動を実施することができました。国際総合力認定制度 (Go Global Gateway, GGG) やグローバル教養科目群 (Global Liberal Arts Courses, GLA) の拡充、グローバルリーダー育成プログラム (Global Leadership Program, GLP) の開始によって、学部や専攻を超えてすべての学生がグローバル体験を積み、英語をはじめとするさまざまな言語でインタラクティブに学ぶための道筋が整いました。

とくに2024年度には、グローバルサウスでの学習や、そうした地域出身の学生との協働・交流に力を入れました。なかでも、バングラデシュに拠点を置くアジア女性大学 (Asian University for Women, AUW) と東京大学からそれぞれ12名の学生が10日間共に学ぶ合同サマープログラム、そして、東京大学の学生8名が2週間ガーナで小学校やNGOを見学したり自らの専門を活かした学習支援活動に従事したりする国際協力パイロットプログラムは、本年度のGlobEの活動のハイライトとなりました。これらのプログラムは、参加学生の視野や世界観に非常に大きなインパクトをもたらすと同時に、当該地域の学生やコミュニティとの深い交流を生み、国際教育・交流の意義を実感させるものでした。

今日の世界における「グローバル」とはなにか。「多様性」や「包摂性」を実現するためにはなにが必要か。「リーダー」に求められる視点や資質はなにか。そうした問いをさまざまな角度から考察し、主体的・協働的に行動できる人材を育てるための道を、GlobEはさらに切り拓いていきます。



東京大学理事・副学長
林 香里

これからの東京大学にとって、「グローバル」と「ダイバーシティ」は教育と研究に欠かせない要素です。私たちは、国内のみならず世界中から人々が集い、多様な価値観が交わるキャンパスを築かなければなりません。そこから新しい発想と深い理解が生まれ、力を合わせてより良い世界を実現していくことができると考えています。

そのため東京大学では藤井輝夫総長のもと、2023年にグローバル教育センター (GlobE)、2024年には多様性包摂共創センター (IncluDE) を学内共同教育研究施設として創設しました。

GlobEは教育を通じて学生のグローバルな視点を育みます。キャンパス内外での留学生との学びや交流から、短期・長期の海外派遣プログラムまで、多様な活動を展開しています。従来から関係の深い東アジアや欧米に加え、東南アジア、オセアニア、南アジア、中東、南アメリカ、アフリカとの教育交流にも力を注いでいます。

本活動報告は、GlobEの2年目の活動を振り返るとともに、今後の方向性を展望するものです。GlobEがこれからも、グローバルな東京大学を推進する原動力となることを強く期待しています。



東京大学副学長・
グローバル教育センター長
矢口 祐人

グローバル化が進む現代社会において、教育の国際化はますます重要になっています。しかし東京大学を含め、日本の大学の現状はまだ十分とは言えません。東京大学には学部・大学院を合わせて3万人近くの学生が在籍していますが、2024年度に交換留学で海外へ行ったのは380名 (1.3%)、その他を含めても2,759名 (9.5%)にとどまり、10人に1人にも達していません。これに対し、海外のトップ大学の学生は留学や海外体験に積極的です。

この差を「若者の内向き志向」のせいにする声もありますが、私は学生だけの責任にすべきではないと考えます。むしろ大学と社会が、学生がグローバルな経験を積める環境をどれだけ整えているかを問わなければなりません。渡航費用、留年リスク、就職活動との両立など、学生にとっての障壁は少なくありません。それを放置したまま「グローバルになるには自分の力で乗り越えるべきだ」とするのは、もはや時代に合わない発想です。

今の大学に必要なことは、学生に確かな制度と支援を提供することです。グローバル教育センター (GlobE) は、東京大学の全学部・研究科の学生がキャンパスの内外で国際的な経験を積めるよう、さまざまな仕組みと支援を用意しています。GlobEの活動を通じて、一人ひとりの学生が国際的な経験を重ねていくことが、東京大学全体の国際化を進める大きな力になります。私たちは、これからもその歩みを共に支えていきます。

CONTENTS

センターについて

- 6 沿革・組織図
- 7 各部門の概要
- 8 運営体制
- 9 メンバー
- 10 特集:グローバルサウスへの短期派遣プログラムや同地域の大学との交流
- 12 特集:Dialogue at UTokyo GlobE
- 14 全学交換留学(USTEP)協定校一覧

国際交流部門

- 16 東京大学からの学生派遣
- 18 海外大学等からの学生受入

国際教育部門

- 24 英語による提供授業・国際化教育プログラム

国際支援部門

- 28 国際総合力認定制度
(Go Global Gateway, GGG)
- 29 留学生と国内学生の交流
- 30 留学生支援室

日本語教育部門

- 32 日本語コースの提供

駒場支部・柏支部

- 34 駒場支部の活動
- 35 柏支部の活動

参考統計資料

- 36 東京大学全体の学生の国際的流動性
- 37 東京大学全体の外国人留学生数
- 38 GlobEへのご支援について
- 39 Quick Links

Instagramでも、グローバル教育
センターの日々の活動について紹
介しています ▶▶▶▶▶





Globe Film Night



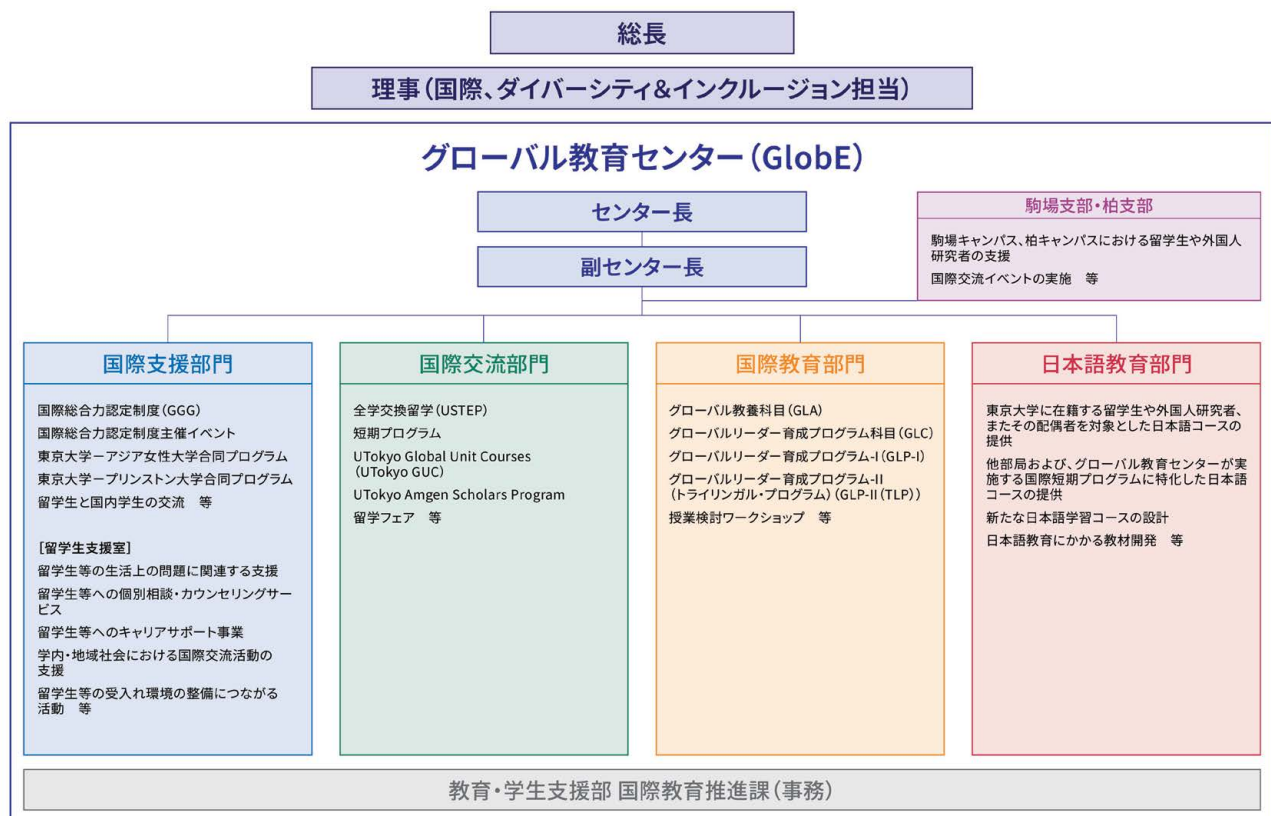
GO GLOBAL 東大留学フェア2024



ラトガース大学生との交流イベント

沿革・組織図

年月	内容
2005年4月	国際連携本部を設置
2010年4月	留学生センター、国際連携本部を再編・統合し、国際本部を設置 国際本部のもとに国際センターおよび日本語教育センターを設置
2011年10月	全学交換留学 (USTEP) 派遣・受入学生募集を開始 (留学開始は2012年9月)
2012年4月	国際本部のもとにグローバル・キャンパス構想推進室を設置
2014年10月	スーパーグローバル大学創成支援事業開始 グローバル・キャンパス構想推進室を改組し、グローバル・キャンパス推進室を設置 グローバル・キャンパス推進室のもとに企画広報部門、教育推進部門、学生交流部門を設置
2017年4月	企画広報部門、教育推進部門、学生交流部門を改組し、企画戦略部門、教育学生部門を設置
2018年4月	国際本部を改組し、グローバルキャンパス推進本部を設置 グローバルキャンパス推進本部のもとに国際企画戦略室、国際化教育支援室、日本語教育センターを設置 国際総合力認定制度 (Go Global Gateway, GGG) を開始
2021年6月	UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC) の開講
2023年4月	グローバルキャンパス推進本部を廃止し、グローバル教育センター (GlobE) を設置 グローバル教育センターのもとに国際支援部門、国際交流部門、国際教育部門、日本語教育部門、駒場支部、柏支部を設置 グローバル教養科目 (Global Liberal Arts Courses, GLA) の開講
2024年4月	グローバルリーダー育成プログラム推進室を廃止し、グローバル教育センターにGlobal Leadership Program－Global Education for Innovation & Leadership (GLP-GEfIL) 事業を移管
2024年10月	グローバルリーダー育成プログラム-I (Global Leadership Program-I, GLP-I) を開始 グローバルリーダー育成プログラム科目 (Global Leadership Courses, GLC) の開講



各部門の概要

国際支援部門

グローバル・シチズン育成のため、世界の多様な人々と共に生き、共に働く力（国際総合力）を身につけられるよう、国際総合力認定制度（GGG）を展開しています。また、学内外の多様な国際教育活動を糾合・可視化し、その実践を促すことで、学生の国際化を徹底的にサポートしています。今後は学生の国際的活動の幅を一層広げるため、卒業生ネットワークや産官との連携構築を図り、外部資金獲得にも繋げていきます。

また、急増する留学生への支援として、留学生支援室を設けています。これまで以上に留学生のための相談体制を強化し、さらに、卒業後の日本定着を見据えた就職支援なども拡充していきます。

国際交流部門

交換留学や短期プログラムでの学生の派遣・受入の拡大を図っており、2024年度は550名を超える派遣、500名を超える受入を実現しました。交換留学や短期プログラムに加え、有料の短期受入プログラム（UTokyo GUC）など、新しい多様な形の国際プログラムを整備し、東京大学の学生の派遣を促す一方、世界各地からの受入学生を増やしています。また、国際支援部門で構築された産官等との連携をもとに、受入型の国際インターンシップ制度をUTokyo GUCなどの枠組みで制度化していきます。

さらに、南アジア、東欧、アフリカなど従来、東京大学の学部学生の交流が非常に限られてきた地域に焦点をあてた「ブレイクスルー」型の国際交流の充実を図ります。

国際教育部門

2023年度Sセメスターから、ジェンダー、ダイバーシティ、健康、貧困、GX（グリーントランスフォーメーション）などのSDGs関連テーマを英語を用いて少人数でインタラクティブに学ぶ授業「グローバル教養科目（GLA）」の提供を開始し、各学部・研究科の学生と交換留学生等が文理を横断した形で共に学ぶ環境を整えました。2024年度は「グローバル教養科目」をSセメスター・Aセメスター**合わせて65科目提供し、新たに「グローバルリーダー育成プログラム科目（GLC）」1科目の提供をAセメスターに開始しました。また、授業担当教員が参加するGLA Faculty Meeting（年間計4回）を行い、授業テーマや成績評価、履修者数増加などに関する議論を行ったほか、授業実践に関する教員間の意見交換を促進するため、リエゾン教員を配置し、教員による自主的な授業検討ワークショップも開催しました。加えて、お茶の水女子大学との包括協定に基づく共同実施授業を、Aセメスターから開始しました。

さらに、従来の GLP-GEFIL（Global Education for Innovation and Leadership）をグローバル教育センターに移管して実施する後継プログラムとして、「グローバルリーダー育成プログラム-I（GLP-I）」を開始し、加えて、翌年度からの「グローバルリーダー育成プログラム-II（トライリンガル・プログラム）（GLP-II（TLP）」開始に向けて検討を進めました。また、これらのプログラムについて学生向けの各種説明会を開催しました。

*Sセメスター：4月から7月まで授業を行う学期／**Aセメスター：10月から翌年1月まで授業を行う学期

日本語教育部門

5,200名を超える留学生に加え、外国人研究者、またその配偶者に日本語教育を提供しています。2024年度は約120コースを提供し、延べ受講者数は1,600名を超えました。学内の各キャンパスにまたがる構成員の多様なニーズに応えるべく、ほぼすべての授業をオンライン化すると共に、時間やレベル、関心に合わせて参加しやすい短期コースやスポット講座を充実させています。また、学内の他部局やグローバル教育センターが実施する国際短期プログラムのための特別な日本語コースの提供にも対応しています。

さらに、2024年度には新たに入学前の留学生を対象とした有料の日本語コースを設計し、2025年3月から申請受付を開始しました。

駒場支部・柏支部

各キャンパスの留学生・研究者の支援を通じて4つの部門の活動を展開し、キャンパス全体のグローバル化を図ります。

運営体制

グローバル教育センターでは、その運営のために以下の委員会を設置しています。

東京大学グローバル教育センター運営委員会

(組織、教員人事、教育、予算に関する各事項、その他センターの運営に関する重要事項)

委員長	矢口 祐人	副学長・グローバル教育センター長・大学院総合文化研究科教授
委員	林 香里	理事・副学長(国際、ダイバーシティ&インクルージョン)
委員	森山 工	理事・副学長(教育、情報)
委員	中尾 まさみ	グローバル教育センター副センター長・特任教授(駒場支部担当教員)
委員	吉原 真里	国際教育部門教授
委員	小原 優貴	国際教育部門准教授
委員	JungHyun Jasmine Ryu	国際交流部門講師
委員	Sam Bamkin	国際教育部門講師
委員	Dipesh Kharel	国際教育部門講師
委員	前原 かおる	日本語教育部門講師
委員	大西 晶子	国際支援部門教授・相談支援研究開発センター教授
委員	原田 麻里子	国際支援部門講師・相談支援研究開発センター講師
委員	福島 孝治	大学院総合文化研究科教授
委員	内堀 朝子	大学院工学系研究科准教授
委員	大宮 勘一郎	大学院人文社会系研究科教授
委員	李 正連	大学院教育学研究科教授
委員	伊藤 耕一	大学院新領域創成科学研究科教授(柏支部担当教員)
委員	北村 友人	国際戦略企画室副室長・大学院教育学研究科教授
委員	福士 謙介	未来ビジョン研究センター教授
委員	八島 崇	教育・学生支援部長

東京大学グローバル教育センター教務委員会

(グローバル教養科目群、国際総合力認定制度、短期の学生交流、日本語教育に関する各事項、グローバル教育センター運営委員会から付託された事項、その他全学の国際化教育に関する事項)

委員長	中尾 まさみ	グローバル教育センター副センター長・特任教授(駒場支部担当教員)
委員	吉原 真里	国際教育部門教授
委員	小原 優貴	国際教育部門准教授
委員	JungHyun Jasmine Ryu	国際交流部門講師
委員	Sam Bamkin	国際教育部門講師
委員	Dipesh Kharel	国際教育部門講師
委員	前原 かおる	日本語教育部門講師
委員	福島 孝治	大学院総合文化研究科教授
委員	内堀 朝子	大学院工学系研究科准教授
委員	大宮 勘一郎	大学院人文社会系研究科教授
委員	李 正連	大学院教育学研究科教授
委員	伊藤 耕一	大学院新領域創成科学研究科教授(柏支部担当教員)
委員	福士 謙介	未来ビジョン研究センター教授
委員	八島 崇	教育・学生支援部長

メンバー

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
グローバル教育 センター	センター長	矢口 祐人	国際教育部門	特任講師	Candler Hallman
	副センター長	中尾 まさみ		特任講師	Stefanie Mack
	特任研究員	貴船 美波		特任講師	John Solomon Maninang
国際教育部門	教授	吉原 真里		特任講師	Raquel Moreno-Penaranda
	特任教授	Tom Gally		特任講師	Francesco Cangemi
	准教授	小原 優貴		特任講師	Kristopher McEown
	講師	Sam Bamkin	国際交流部門	講師	JungHyun Jasmine Ryu
	講師	Dipesh Kharel	国際支援部門	教授(兼務)*	大西 晶子
	特任講師	細川 尚子		講師(兼務)*	原田 麻里子
	特任講師	Tito Akindele		特任講師	下山田 翔
	特任講師	Incoronata Nadia Inserra		特任講師(兼務)*	今井 秀昭
	特任講師	Eric Vanden Bussche		特任助教	塩山 皐月
	特任講師	Ian Wash		特任助教(兼務)*	江 志遠
	特任講師	Sylwia Ejmont	日本語教育部門	講師	前原 かおる
	特任講師	神島 智子		助教	芹川 佳子
	特任講師	Isaac Tyrone Ghampson		助教	張 未未
	特任講師	John Quayle			
	特任講師	Aurora Tsai			
	特任講師	Dennis Stromback			
	特任講師	Leonard Sprague			
	特任講師	Manuel Senna			
	特任講師	多田 恵里沙			
	特任講師	Ying Shan (Doris) Zhang			
	特任講師	Greg Dalziel			
	特任講師	Richard Dietz			
	特任講師	Alexandra Terashima			
	特任講師	Erika D'Souza			
	特任講師	Christopher Nicklin			
	特任講師	Naomi Berman			
	特任講師	John Pazdziora			
	特任講師	Catherine Hansen			
	特任講師	Graham Peebles			
	特任講師	Alex Bueno			
	特任講師	船田 なつの			
	特任講師	Jesús Alberto Pulido Arcas			
	特任講師	Simon Perry			

*相談支援研究開発センターと兼務

2024年度末時点

グローバルサウスへの短期派遣プログラムや 同地域の大学との交流

東京大学－JICAガーナ国際協力パイロットプログラム

2025年3月、グローバル教育センターは国際協力機構（JICA）と連携し、「東京大学－JICAガーナ国際協力パイロットプログラム」を実施しました。本プログラムには、公衆衛生や工学、農学、教育学など多様な分野を専攻する学部学生・大学院学生8名が参加し、ガーナで2週間の実践的な現地学習を行いました。

プログラム前半、学生はJICAが支援する小学校で日本式カリキュラムの算数の授業を見学したほか、CLOUDYやMAGO CREATIONといった現地のNGOを訪ね、芸術教育や環境分野における草の根の活動を学びました。後半はホ、ケープコースト、キビの各活動地で海外協力隊員と合流し、2人1組のペアとなり、専門性を活かして、理科や農業の授業、環境ワークショップ、聴覚に障害のある生徒へのICTを活用した授業などを実践しました。これらの活動を通じ、学生は専門知識を実社会で応用する貴重な機会を得て、現地の学校やコミュニティに貢献するとともに、異文化理解を深めました。

また、カカオ農園への訪問やガーナ大学の学生との交流会といった文化体験も行われました。交流会では、日本のドキュメンタリー映画『小学校～それは小さな社会～』を題材に教育やリーダーシップについて議論を交わし、義本博司駐ガーナ日本国特命全権大使も臨席されました。この様子は現地メディアでも広く報道され、両国間の教育連携の重要性を示す機会となりました。

本プログラムは、インクルーシブな国際化、学生の主体的な参画、そしてグローバルサウスとの連携拡大を目指すグローバル教育センターの理念を体現したものとと言えます。そして、今回の成功は、東京大学とガーナの将来的な協働と学術連携の強固な基盤となるものです。本プログラムの実現にご協力いただいたJICAガーナ事務所の皆様に心より感謝申し上げます。

写真提供：国際協力機構（JICA）





写真提供:国際協力機構 (JICA)

アジア女性大学との学生交流プログラム

アジア女性大学 (Asian University for Women, AUW) はチッタゴン (バングラデシュ) にあるリベラルアーツ型の大学で、南アジアを中心とした地域の女性に高等教育で学ぶ機会を提供しています。

東京大学では、2021年度から合同短期プログラムを実施し、2024年度は「身体・環境・サステナビリティ」“Body, Environment and Sustainability”をテーマに、両大学の学生が共に学びました。

▶ プログラムの詳細はp. 28



Dialogue at UTokyo GlobE

グローバル教育センターが主催するDialogue at UTokyo GlobEは、東京大学のグローバル教育の一環として、学生が世界の著名なリーダーとの対話を通して国際理解を深め、グローバルな視座を広げるための対話シリーズです。海外からのゲストと東京大学の総長・理事らが学生と対話する形式を基本としています。2024年度は8回にわたって開催しました。

回	実施日	タイトル	講演者・所属*
7	2024年 4月12日	Dialogue among Dame Louise Richardson, President Teruo Fujii, and Executive Vice President Kaori Hayashi	Dame Louise Richardson (ニューヨーク・カーネギー財団理事長、オックスフォード大学前総長)
8	2024年 5月15日	A Turbulent World in Tectonic Shifts: Case for a Renewed Multilateralism	中満 泉 (国連事務次長・軍縮担当上級代表)
9	2024年 6月24日	The Differences between Japanese and American Universities**	矢口 祐人(モデレーター) (東京大学グローバル教育センター長)
10	2024年 10月4日	Charting Your Journey in the Scientific World	Cynthia M. Friend (カプリ財団会長、ハーバード大学名誉化学教授)
11	2024年 10月28日	Unleashing Power of Diversity in International Workplace	Michelle Baron (日産自動車常務執行役員(グローバル人事マネジメント、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン担当))
12	2024年 12月13日	India-Japan Partnership in the Indo-Pacific and Beyond	Sibi George (駐日インド共和国特命全権大使)
13	2025年 1月15日	Animation as Art and Business in the Global Age	塩田 周三 (株式会社ポリゴン・ピクチュアズ代表取締役)
14	2025年 2月3日	Dialogue among Leaders from OpenAI's U.S. Headquarters, President Teruo Fujii, and Executive Vice President Kaori Hayashi	Sam Altman (OpenAI社最高経営責任者(CEO)) Kevin Weil (同社最高製品責任者(CPO))

*所属に関する情報は実施時のもの

**東京大学－プリンストン大学交流セッション(p. 29)にて、参加学生によるディスカッションを中心に実施



第10回
Charting Your Journey in the Scientific World



第11回
Unleashing Power of Diversity in International Workplace



第7回
Dialogue among Dame Louise Richardson, President Teruo Fujii, and Executive Vice President Kaori Hayashi



第12回
India-Japan Partnership in the Indo-Pacific and Beyond



第14回
Dialogue among Leaders from OpenAI's U.S. Headquarters, President Teruo Fujii, and Executive Vice President Kaori Hayashi

全学交換留学(USTEP)協定校一覧

全学交換留学(University-wide Student Exchange Program, USTEP)は、東京大学と東京大学の協定校との間で、全学レベルで学生の派遣・受入を行う留学プログラムです。詳細はそれぞれ16ページ(全学交換留学(USTEP)－東京大学から協定校への学生派遣)と18ページ(全学交換留学(USTEP)－協定校から東京大学への学生受入)をご覧ください。

アジア

バングラデシュ	アジア女性大学
中国	復旦大学、南開大学、南京大学、 北京大学、上海交通大学、 清華大学、浙江大學
香港	香港科技大学、香港大学
インド	O.P.ジンダル・グローバル大学 (新規協定校)
インドネシア	ガジャマダ大学、インドネシア大学
韓国	高麗大学校、浦項工科大学校、 ソウル大学校、延世大学校
マレーシア	マラヤ大学
フィリピン	フィリピン大学
シンガポール	ナンヤン工科大学、 シンガポール国立大学
台湾	国立陽明交通大学、国立台湾大学
タイ	チュラロンコン大学

中南米

ブラジル	サンパウロ大学
チリ	チリ・カトリック大学、チリ大学
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ メキシコ国立自治大学

中近東

トルコ	ボアジチ大学
イスラエル	エルサレム・ヘブライ大学

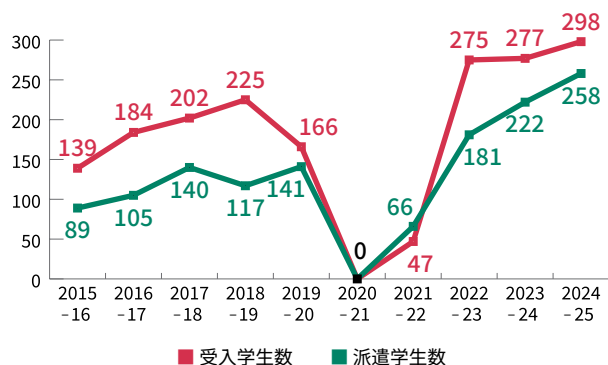
北米

カナダ	マギル大学、 ブリティッシュ・コロンビア大学、 トロント大学、ビクトリア大学
米国	ジョンズ・ホプキンス大学、 ノースイースタン大学、 ノースウェスタン大学、 プリンストン大学(大学院)、 プリンストン大学(学部)、 スワースモアカレッジ、 カリフォルニア大学サンタクルーズ校、 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、 ワシントン大学、 イェール大学(Fox International Fellowship Program)

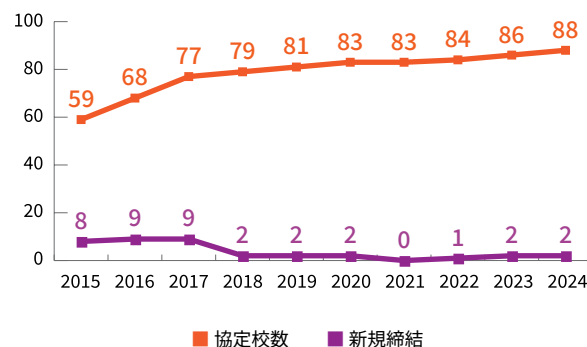
オセアニア

オーストラリア	オーストラリア国立大学、 モナシュ大学、アデレード大学、 メルボルン大学、 クィーンズランド大学、 シドニー大学、 ニューサウスウェールズ大学
ニュージーランド	オークランド大学、オタゴ大学

■ 全学交換留学 派遣／受入学生数の推移



■ 協定校数推移

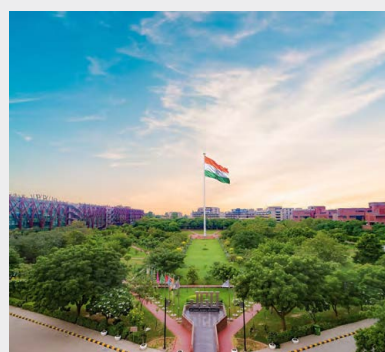


ヨーロッパ

デンマーク	コペンハーゲン大学
フィンランド	ヘルシンキ大学
フランス	EHESS (社会科学高等研究院)、 エコール・ポリテクニク、 パリ政治学院、グルノーブル・アルプ大学、 ストラスブール大学
ドイツ	ベルリン自由大学、 ミュンヘン・ルートヴィヒ＝マクシミリアン大学、 ケルン大学、 ボン大学 (新規協定校)
アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン、 ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン
イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ
オランダ	ライデン大学、フローニンゲン大学
ロシア	サンクトペテルブルク大学
スペイン	マドリード自治大学
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学、ルンド大学、 ストックホルム大学、ウプサラ大学
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ、 ジュネーヴ大学、チューリッヒ大学
英国	ダラム大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・ アンド・ポリティカル・サイエンス、 ロンドン大学東洋アフリカ学院、グラスゴー大学、 マンチェスター大学、シェフィールド大学、 ウォーリック大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、 エクセター大学、サウサンプトン大学

2024年度末時点で、交換留学を実施するために東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。

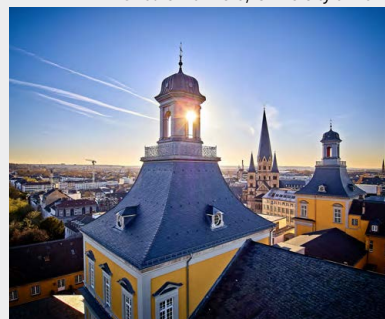
新規協定校



O.P.ジンダル・グローバル大学

O.P.ジンダル・グローバル大学は、インドのハリヤーナー州ソニパットに位置する私立大学です。創立者であるナヴィーン・ジンダル氏が、亡き父O.P.ジンダル氏を偲び慈善事業として2009年に設立しました。12の学部を擁し、100ヶ国以上から集まった16,000名を超える学生が、1,100名以上の専任教員のサポートのもと、キャンパス内で生活を共にしながら学んでいます。

©Volker Lannert / University of Bonn



ボン大学

1818年に設立されたボン大学は、7つの学部におよそ38,300名の学生と6,000名以上の研究者を擁するドイツ最大の学術機関のひとつです。また世界中から6,700名以上の留学生を受入れている、最も国際的な大学のひとつでもあります。

東京大学からの学生派遣

全学交換留学(USTEP)－東京大学から協定校への学生派遣

USTEPには、どの学部・研究科の学生でも応募することが可能です。東京大学が授業料を徴収せずに協定校の学生を受入れる代わりに、東京大学の学生は東京大学に授業料を納めれば、留学先での授業料を支払わずに協定校で授業を履修したり、研究指導を受けたりすることができます。

2024年度に留学を開始する学生募集から、語学能力証明書の提出時期を変更するなど、学生が応募しやすくするための募集方法の改善を行い、2024年度は秋学期・春学期合わせて258名と、過去最多の学生を派遣しました。

また、2024年度から留学可能な協定校としてノースウェスタン大学(米国)*が新たに加わり、さらに2024年度から応募が可能な協定校(留学開始は2025年度)としてアジア女性大学(バングラデシュ)*、O.P.ジンダル・グローバル大学(インド)、ボン大学(ドイツ)が新たに加わりました。

*学生交流覚書の締結は2023年度

2024年度派遣実績

■ 秋学期(2024年8～10月開始)

国・地域	大学名	学部学生	大学院学生	計	国・地域	大学名	学部学生	大学院学生	計
中国	清華大学	1	0	1	デンマーク	コペンハーゲン大学	5	1	6
	北京大学	1	0	1	フィンランド	ヘルシンキ大学	1	1	2
香港	香港大学	3	0	3	フランス	エコール・ポリテクニク	0	1	1
韓国	ソウル大学校	2	0	2		グルノーブル・アルプ大学	2	1	3
マレーシア	マラヤ大学	1	0	1		EHESS(社会科学高等研究院)	0	3	3
フィリピン	フィリピン大学	0	1	1		ストラスブール大学	2	1	3
シンガポール	シンガポール国立大学	7	0	7	ドイツ	パリ政治学院	5	0	5
	ナンヤン工科大学	3	3	6		ケルン大学	2	0	2
台湾	国立台湾大学	1	0	1		ベルリン自由大学	0	2	2
タイ	チュラロンコン大学	1	0	1	ミューンヘン	ルートヴィヒ・マクスミリアン大学	3	0	3
メキシコ	メキシコ国立自治大学	1	0	1	アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン	2	0	2
トルコ	ボアジチ大学	2	0	2	イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ	1	0	1
カナダ	トロント大学	5	1	6	オランダ	フローニンゲン大学	2	0	2
	ビクトリア大学	2	0	2	ライデン	ライデン大学	4	0	4
	プリティッシュ・コロンビア大学	5	0	5	スペイン	マドリッド自治大学	1	0	1
	マギル大学	4	0	4	スウェーデン	ウプサラ大学	3	1	4
米国	イェール大学 (Fox International Fellowship Program)	0	1	1		スウェーデン王立工科大学	2	6	8
	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	5	0	5		ストックホルム大学	2	0	2
	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	4	1	5		ルンド大学	2	0	2
	ジョンズ・ホプキンス大学	2	0	2	スイス	ジュネーヴ大学	3	1	4
	スワースモアカレッジ	2	0	2		スイス連邦工科大学チューリッヒ	4	4	8
	ノースイースタン大学	3	0	3		チューリッヒ大学	0	1	1
	プリンストン大学(学部)	2	0	2	英国	ウォーリック大学	3	0	3
	プリンストン大学(大学院)	0	2	2		エクセター大学	4	0	4
	ワシントン大学	3	0	3		グラスゴー大学	1	1	2
オーストラリア	アデレード大学	3	0	3		サウサンプトン大学	3	0	3
	オーストラリア国立大学	3	0	3		シェフィールド大学	2	1	3
	クイーンズランド大学	1	1	2		ダラム大学	6	0	6
	シドニー大学	7	1	8		マンチェスター大学	2	0	2
	ニューサウスウェールズ大学	4	2	6		ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	6	0	6
	メルボルン大学	6	4	10		ロンドン大学東洋アフリカ学院	3	0	3
	モナシュ大学	6	1	7		ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス	1	0	1
ニュージーランド	オークランド大学	0	1	1	合計		170	44	214
	オタゴ大学	3	0	3					

■ 春学期(2025年1～2月開始)

国・地域	大学名	学部学生	大学院学生	計	国・地域	大学名	学部学生	大学院学生	計
中国	復旦大学	1	0	1	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	1	1	2
	北京大学	1	0	1		モナシュ大学	3	0	3
香港	香港科技大学	1	0	1	フィンランド	ヘルシンキ大学	0	1	1
韓国	ソウル大学校	0	1	1	ドイツ	ケルン大学	2	1	3
マレーシア	マラヤ大学	2	0	2	アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン	1	0	1
台湾	国立台湾大学	2	1	3		ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン	2	0	2
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	0	1	1	スウェーデン	ウプサラ大学	1	0	1
トルコ	ボアジチ大学	1	0	1		スウェーデン王立工科大学	1	0	1
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	1	0	1	スイス	ルンド大学	2	1	3
米国	ノースウェスタン大学	1	0	1		チューリッヒ大学	2	1	3
オーストラリア	アデレード大学	0	1	1	英国	シェフィールド大学	3	1	4
	オーストラリア国立大学	1	0	1		マンチェスター大学	2	0	2
	クイーンズランド大学	1	0	1	合計		34	10	44
	シドニー大学	2	0	2					

USTEP関連イベント

学生のUSTEPへの関心と理解を深め、有意義な留学を実現するためのさまざまなイベントを開催しています。2024年5月12日に実施した「GO GLOBAL 東大留学フェア2024」ではUSTEPについて教職員に直接質問・相談ができるブースや、留学経験者や東京大学で学ぶ交換留学生と自由に交流できる学生交流スペースを設け、USTEPのプロモーションを行いました。

また、2024年6月13日と6月26日には、学生スタッフが企画した「全学交換留学派遣予定学生対面交流会」を開催しました。本イベントは留学前の時期に開催し、留学予定者同士のネットワーキングや、留学予定者と留学経験者の間での情報交換ができる場を提供しました。さらに2024年8月30日には、USTEPの秋募集の締切を前に、交換留学制度・応募方法・奨学金などについて、プログラム担当者がオンラインで説明する「全学交換留学(USTEP)説明会」を開催しました。

全学短期派遣プログラム

グローバル教育センターが担当する短期プログラム(2～4週間)には、夏季休業期間中に実施されるサマープログラムと、春季休業期間中に実施されるウィンタープログラムがあります。

これらのプログラムは協定校等と連携して東京大学の学生のために実施しており、語学学習・講義・フィールドワーク・現地学生との交流・文化体験などさまざまな活動が行われます。条件を満たす学生には奨学金も支給し、より長期で専門的な留学への準備や動機づけとなる機会を提供することを目的としています。また、2025年3月には、「東京大学－JICAガーナ国際協力パイロットプログラム」(p.10)を新たに実施しました。

そのほか、東京大学の協定校や東京大学が加盟する大学連合が実施するプログラムについても、学生が直接応募できるよう情報を収集・整理し、ウェブサイトで積極的に発信しています。多様なプログラムの情報を提供することにより、学生一人ひとりの興味や目的に合った留学機会の拡充を図っています。

■ 2024年度派遣実績

プログラム種別	派遣先大学	参加人数
サマープログラム	シェフィールド大学	34
	ウォーリック大学	31
	チュロンコン大学	34
	キングモンクット工科大学 トンブリ校	13
ウィンタープログラム	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	22
	アデレード大学	44
	オタゴ大学	24
	浙江大學	31
	パリ政治学院	9
合計		242

直接応募のプログラム
(海外大学等主催プログラム)
のウェブページ ▶▶▶▶



海外大学等からの学生受入

全学交換留学(USTEP)ー協定校から東京大学への学生受入

USTEPには、学部学生を対象としたType Uと、大学院学生を対象としたType Gの2種類があります。Type U生はグローバル教育センターに所属し、各学部で開講されている多様な授業を履修することが可能です。学生の関心に応じた幅広い学びの機会を提供しており、多くのType U生が「グローバル教養科目」(p. 26)を履修し、東京大学の学生や他の交換留学生と共にインタラクティブな学びを経験しています。Type G生は各大学院に所属し、専門分野に関連する授業の履修や研究室での研究活動を通じて、専門性を深めることができます。

2024年度は、Sセメスター・Aセメスター合わせて75校から計298名の学生を受入れ、過去最大の受入規模となりました。受入学生の出身地域や専攻分野も多岐にわたり、東京大学の多様性の向上に大きく貢献しています。今後は、これまで学生交流が限られていた地域の大学との連携も見込まれており、受入学生のさらなる多様化と、より豊かな国際交流の場の創出が期待されます。

2024年度受入実績

■ Sセメスター (2024年4月開始)

国・地域	大学名	Type U	Type G	計	国・地域	大学名	Type U	Type G	計
中国	南京大学	2	0	2	アイルランド	ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン	3	0	3
	北京大学	0	1	1	ロシア	サンクトペテルブルク大学	2	0	2
	清華大学	2	0	2	スペイン	マドリード自治大学	1	0	1
香港	香港科技大学	3	0	3	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	2	2	4
インドネシア	ガジャマダ大学	2	0	2		ルンド大学	1	0	1
マレーシア	マラヤ大学	1	0	1		ストックホルム大学	0	1	1
韓国	高麗大学校	2	0	2	スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ	2	6	8
	浦項工科大学校	2	0	2		ジュネーヴ大学	2	2	4
	ソウル大学校	3	0	3		チューリッヒ大学	0	1	1
シンガポール	ナンヤン工科大学	3	0	3	英国	マンチェスター大学	1	0	1
	シンガポール国立大学	6	0	6		サウサンプトン大学	2	0	2
台湾	国立台湾大学	3	0	3	合計		89	20	109
チリ	チリ・カトリック大学	2	0	2					

■ Aセメスター (2024年9月／10月開始)

カナダ	トロント大学	5	0	5	国・地域	大学名	Type U	Type G	計
	ビクトリア大学	1	0	1					
米国	ノースイースタン大学	4	0	4	中国	復旦大学	3	0	3
	プリンストン大学	1	0	1		南京大学	2	0	2
	スワースモアカレッジ	1	0	1		北京大学	0	8	8
						上海交通大学	2	0	2
オーストラリア	オーストラリア国立大学	5	0	5		清華大学	4	1	5
	アデレード大学	1	0	1		浙江大学	5	1	6
	メルボルン大学	2	0	2	香港	香港科技大学	3	0	3
	ニューサウスウェールズ大学	2	0	2		香港大学	3	0	3
	クイーンズランド大学	1	1	2	インドネシア	ガジヤマダ大学	1	0	1
	シドニー大学	2	1	3	マレーシア	マラヤ大学	1	0	1
ニュージーランド	オークランド大学	1	0	1	韓国	高麗大学校	2	0	2
トルコ	ボアジチ大学	1	0	1		ソウル大学校	3	0	3
デンマーク	コペンハーゲン大学	1	2	3	シンガポール	シンガポール国立大学	2	0	2
フィンランド	ヘルシンキ大学	1	0	1	台湾	国立陽明交通大学	1	0	1
フランス	パリ政治学院	5	1	6	タイ	チュラロンコン大学	0	1	1
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ=マクスミリアン大学	1	1	2	チリ	チリ大学	1	0	1
	ケルン大学	2	1	3	カナダ	マギル大学	1	0	1

国・地域	大学名	Type U	Type G	計	国・地域	大学名	Type U	Type G	計
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	7	0	7	フランス	ストラスブール大学	2	0	2
	トロント大学	2	1	3	ドイツ	ベルリン自由大学	1	0	1
	ビクトリア大学	1	0	1		ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクスミリアン大学	2	2	4
米国	ジョンズ・ホプキンス大学	1	0	1		ケルン大学	1	2	3
	プリンストン大学	1	0	1	アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン	1	0	1
	スワースモアカレッジ	1	0	1		ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン	2	0	2
	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	6	0	6	オランダ	ライデン大学	2	1	3
	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	2	0	2		フローニンゲン大学	4	0	4
	ワシントン大学	3	0	3	スペイン	マドリード自治大学	3	0	3
					スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	0	1	1
オーストラリア	オーストラリア国立大学	4	0	4		ルンド大学	1	4	5
	モナシュ大学	2	0	2		ストックホルム大学	1	0	1
	アデレード大学	3	0	3		ウプサラ大学	4	0	4
	メルボルン大学	2	1	3	スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ	3	4	7
	ニューサウスウェールズ大学	1	0	1		ジュネーヴ大学	1	6	7
	クィーンズランド大学	2	0	2	英国	ダラム大学	5	0	5
	シドニー大学	3	0	3		ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス	5	0	5
ニュージーランド	オークランド大学	1	0	1		ロンドン大学東洋アフリカ学院	3	0	3
	オタゴ大学	2	0	2		グラスゴー大学	2	0	2
イスラエル	エルサレム・ヘブライ大学	2	0	2		シェフィールド大学	1	0	1
トルコ	ボアジチ大学	3	0	3		ウォーリック大学	2	0	2
デンマーク	コペンハーゲン大学	3	4	7		ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	6	0	6
フィンランド	ヘルシンキ大学	2	0	2		エクセター大学	3	0	3
フランス	EHESS(社会科学高等研究院)	0	2	2		サウサンプトン大学	2	0	2
	エコール・ポリテクニク	4	0	4	合計		150	39	189
	グルノーブル・アルプ大学	1	0	1					

受入学生のためのオリエンテーション

Sセメスター(4月)およびAセメスター(9月)のプログラム開始時には、東京大学での留学生活のスタートを記念して、安田講堂にてオリエンテーションを開催しています。

2024年度のオリエンテーションでは、矢口センター長による歓迎の挨拶に続き、グローバル教育センター関係教員の紹介が行われました。後半には、USTEP生のパートナーとなる東京大学の学生(USTEP Partners)が中心となりWelcome Gatheringセッションを実施し、過去のUSTEP参加者による体験談の発表や、USTEP Partnersが企画したゲームを通じて交流を深めました。

オリエンテーション終了後には、USTEP Partnersの案内で本郷キャンパスツアーを行い、学生同士の交流とキャンパスへの理解を促進する有意義な機会となりました。

USTEP Partners

USTEP Partnersは、学生同士が自発的に国際交流を行う機会を提供することを目的として、2023年Aセメスターから始まった新たな試みです。東京大学の学生がUSTEP生の「パートナー」となり、日本での学生生活に慣れるためのサポートの提供、より充実した留学生活を送るための交流イベントの企画・実施、互いに親睦を深めるためのグループ活動などを行います。



UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC)

UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC) は、グローバルキャンパス推進本部（現・グローバル教育センター）が2021年度に開始した、世界に開かれた全学レベルの授業料徴収型短期受入プログラムです。東京大学の教員が英語で集中形式の講義を行うこのプログラムには、世界中から選考を通過した学生が集まり、例年6月半ばから7月末にかけて、1～2週間のコースを単数または複数履修します。

2024年度は、キャンパスに学生を迎え入れる対面での開催も2年目となり、コースのバリエーションもさらに広がりました。人文科学系からSTEM系まで新たに7つの科目が加わった専門科目15コースに加え、レベル別に設計されたオンライン日本語科目5コースを含む、合計20コースが開講され、6月17日から7月26日までの約1か月半、20以上の国・地域に所在する83の大学から、延べ300名を超える学生が参加しました。

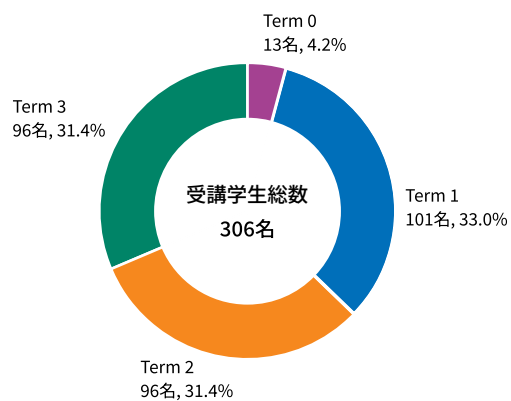
専門科目ではレクチャーだけでなくディスカッションを取り入れた講義に加え、ラボツアーや他キャンパス訪問、デザインワークやフィールドトリップなど、教室外でもユニークな学びの機会が提供されました。また、プログラムでは東京大学の学生との交流を兼ねた「Get Together」などのランチギャザリングも開催され、参加学生からは、学習面だけでなく生活面からも本学の学生生活を体験できる有意義なプログラムだったとの声が多く寄せられました。

開講コース一覧

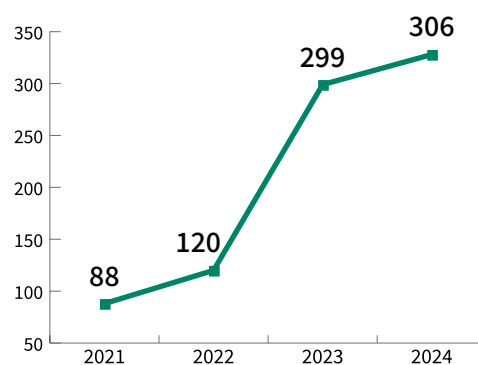
開講時期	コースタイトル	担当教員
Term 0	Survival Japanese (Beginner Level) *	前原 かおる 講師(コーディネーター)
Term 1	A History and Culture of the Senses	久野 愛 准教授
	International Security of the Asia-Pacific	Yee Kuang Heng 教授
	AI for Understanding Human Intelligence	長井 志江 特任教授
	Resource Management, Efficiency and Social Justice: Both Perspectives from Economics and Sociology*	石原 広恵 准教授
	Tissue Engineering and Stem Cell Technologies for Neuroscience	池内 与志穂 准教授
	Level 1 Further Steps (Lower Elementary Level)*	前原 かおる 講師(コーディネーター)
	Level 2 Further Steps (Upper Elementary Level)*	前原 かおる 講師(コーディネーター)
Term 2	Group Theory and Its Applications	伊藤 由佳理 教授
	Culture, Media and Society in Japan	藤田 結子 准教授
	Design x Health: Creating Ideas for New Futures of Wellbeing	Miles Pennington 教授 松永 行子 教授 箕 康明 教授
	AI and Social Justice	板津 木綿子 教授
	Dilemmas of Development in Asia	佐藤 仁 教授
	Survival Japanese (Beginner Level) *	前原 かおる 講師(コーディネーター)
Term 3	An Introduction to Quantum Biology	Jonathan Woodward 教授
	Modern Japanese History	Michael Facius 准教授
	Governance for Sustainable Development	青木 尚美 准教授
	Early Language Acquisition: How Human Infants Learn Language Within Their Social Environment	辻 晶 連携研究員
	Law in Transnational East Asia	松原 健太郎 教授
	Level 3 Further Steps (Lower Intermediate Level)*	前原 かおる 講師(コーディネーター)

*オンライン開講のコース

■ 2024年度の延べ受講者数 (Termごと)



■ 年度ごとの延べ受講者数



実際のコースとランチギャザリング「Get Together」の様子

UTokyo Amgen Scholars Program

Amgen Scholars Program (ASP) は、米国・アムジェン財団の寄附により未来の科学者やイノベーターの育成を目的とする、8週間の夏季インターンシッププログラムです。主に科学とバイオテクノロジー分野を専攻する学部学生を対象に、世界25の大学／機関における研究機会を提供しており、日本においては、東京大学と京都大学が2015年からプログラム実施校として参加しています。

UTokyo ASPの参加者は、期間中全員が同じ宿舎に滞在し、理系大学院／研究所の研究室において最先端の研究に携わり、文化体験や研究発表を兼ねた小旅行などに参加します。プログラム終了後に開催されるアジア圏の合同シンポジウム（Amgen Scholars Asia Symposium）では、互いの研究発表や他大学プログラム参加者と交流します。また、アカデミアとコーポレート双方から研究者を招いたパネルなどを通して、キャリアパスについて学び、考える機会ともなります。

2023年までは学生の所属大学の所在地を問わず応募を受け付けていましたが、2024年からはアムジェン財団が指定するアジア圏に限られることとなりました。2024年度は、約300件の応募の中から9つの国・地域に所属する13名が東京大学でのプログラムに参加し、6部局13研究室においてそれぞれの研究に従事しました。

プログラム期間中には、文化体験の一環として本郷キャンパス近くの旅館（鳳明館）を会場として日本建築や文化に触れ、三味線のレッスンにも参加しました。中間発表会では1泊2日で箱根を訪れ、互いの研究進捗について発表を行ったほか、芦ノ湖での遊覧船乗船や寄木細工のコースター作りなどを通して交流を深めました。

2024年のシンポジウムは東京大学が主催し、アジアにおける実施校であるシンガポール国立大学、京都大学、清華大学に加え、オセアニア唯一の実施校であるメルボルン大学も初めて参加し、19の国・地域から56名の学生を迎えました。学術面での知識や理解を深める機会となったほか、お台場での夕食や東京湾でのクルーズ、表彰式や各校におけるプログラム活動報告を交えたバンケット、また東京タワーやインターメディアテクへの訪問を通して親睦が深まった3日間となりました。

受入研究室一覧

受入部局	受入教員
医学系研究科	尾藤 晴彦 教授、Meng Ling Moi 教授、上田 泰己 教授
工学系研究科	中川 桂一 准教授
理学系研究科	Robert Campbell 教授、合田 圭介 教授
農学生命科学研究科	藤原 徹 教授、片岡 直行 准教授、津釜 大侑 准教授
薬学系研究科	竹内 恒 教授
生産技術研究所	松永 行子 教授、南 豪 准教授、Soo Hyeon Kim 講師





Amgen Scholars Asia Symposium (2024年8月1日～3日)の様子

英語による提供授業・国際化教育プログラム

東京大学グローバルリーダー育成プログラム (GLP)

ー世界へ、次世代リーダーを育む。グローバルリーダー育成プログラム始動

グローバルリーダー育成プログラム (GLP) が、2024年度に新たな一歩を踏み出しました。GLPは、国境や専門分野を超えて、多様な人々と協働しながら、グローバルな課題を解決する次世代リーダーを育成することを目的としています。

すべての学部学生に開かれたこのプログラムは、多様性（ダイバーシティ）と包摂性（インクルージョン）の観点と、分野を超えた学際的なアプローチを重視しています。GLPは、グローバルリーダー育成プログラム-I (GLP-I) と、グローバルリーダー育成プログラム-II (トライリンガル・プログラム) (GLP-II (TLP)) で構成されます。

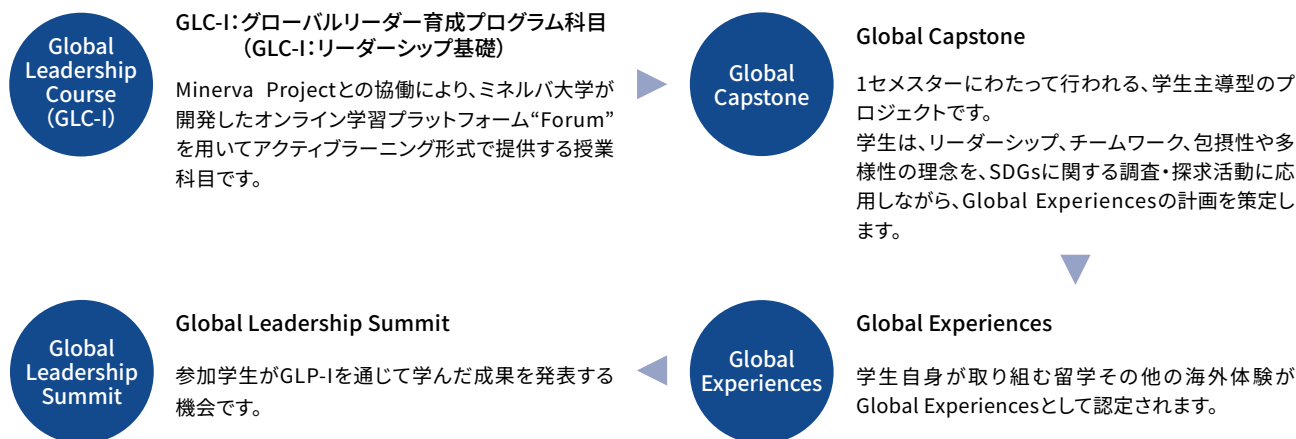


GLP-Iの開講

GLP-Iは、主に英語で実施されるプログラムです。グローバル教養科目 (GLA) やグローバルリーダー育成プログラム科目 (GLC) などを通して、国際社会で活躍するためのリーダーシップと国際総合力を養うことを目的としています。2024年度は、GLP-Iのプログラム構成を策定し、必須科目であるGLC-IをAセメスターから開講し、59名の学生が受講しました。

GLP-Iの構成要素

● Mandatory Components (必須)



● Elective Courses (選択)



GLP-II (TLP) の開講準備

GLP-II (TLP) は、日本語・英語に加えもうひとつの言語（ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・韓国朝鮮語のいずれか）を学習する機会、さらに現代社会をとりまく課題について、複数の言語で学ぶ機会を提供するプログラムです。2024年度は、翌年度からのプログラム開始に向けて検討を進めました。

同一言語で計12単位		4単位
6単位までを認める	6単位以上	
ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語、スペイン語で実施		英語で実施
総合科目L系列	グローバル 教養科目 (GLA) グローバル 教養言語科目 (上級) (L-GLA (Advanced))	グローバル 教養科目 (GLA)
前期課程における授業科目	グローバル教育センター (GlobE) が開講する授業科目。2年次最終セメスターに在籍している進学内定者、全学部の後期課程学生 (3年・4年生)、大学院学生、交換留学生が履修できる。	

+

	12単位取得する言語で／を学ぶ国際的な体験やプログラムを、一定の基準に基づき「海外体験」としてグローバル教育センター (GlobE) が認定するもの。
---	---

GLP-II (TLP) の修了には、「『英語以外の同一言語』*によるグローバル教養科目 (GLA) とグローバル教養言語科目 (L-GLA) の合計12単位以上の取得**」、「英語で実施されるグローバル教養科目 (GLA) 4単位以上の取得」、そして所定の海外体験 (Global Experiences) が必要となります。

*ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・韓国朝鮮語のうちいずれか。

** このうち6単位は総合科目L系列の大科目名「国際コミュニケーション」の上記言語科目で代えることができます。

世界と対話しよう：東京大学グローバルリーダー育成プログラム (GLP) + 関連外国語説明会

2025年3月14日に、イベント「世界と対話しよう：東京大学グローバルリーダー育成プログラム (GLP) + 関連外国語説明会」を東京大学駒場キャンパスで開催しました。

本イベントは、新入学予定学生とその保護者、在学生を対象として、東京大学のグローバルリーダー育成プログラム (Global Leadership Program (GLP)) およびこれに関連する外国語学習について説明する機会として開催されました。説明の前後には、GLP-II (TLP) を構成する各言語とグローバル教育センターが設けたブースで個別相談も行われ、言語を学ぶこと、言語を使いこなすことの楽しさが積極的に発信されたイベントとなりました。



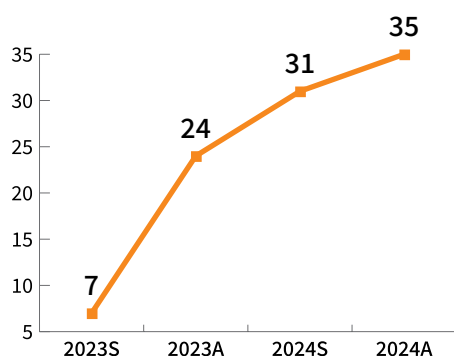
グローバル教養科目 (Global Liberal Arts Courses, GLA)

「グローバル教養科目 (GLA)」は、グローバル教育センターが2023年度から提供している授業科目です。2024年度はSセメスター31科目、Aセメスター34科目を提供し、累計875名 (約6割がUSTEP生) が受講しました。また、2023年度に引き続き、ウクライナ侵攻を受けた「学生・研究者の特別受入れプログラム」により東京大学で学んでいる学生のGLA履修を受入れ、Sセメスター・Aセメスターにそれぞれ2名が履修しました (いずれも延べ数)。

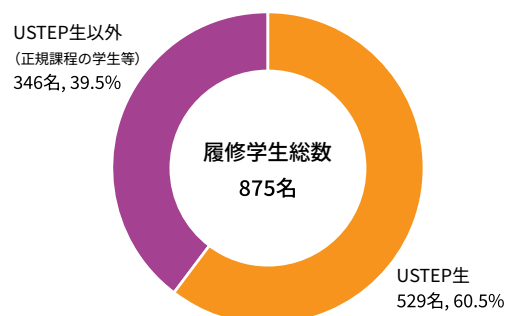
さらに、通常の授業に加え、授業担当教員が参加するGLA Faculty Meeting (年間計4回実施) を行い、授業テーマや成績評価、履修者数増加などに関する議論を行ったほか、授業実践に関する教員間の意見交換を促進するため、リエゾン教員を配置し、教員による自主的な授業検討ワークショップも開催しました。

2024年度は新しく、Minerva Projectとの協働により、ミネルバ大学が開発したオンライン学習プラットフォーム“Forum”を用いてアクティブラーニング形式で提供する授業科目として、「グローバルリーダー育成プログラム科目 (GLC)」を開講・開講し、Aセメスターにグローバルリーダー育成プログラム科目 (GLC-I: リーダーシップ基礎) 1科目を59名 (うちUSTEP生は1名) が受講しました。

■ グローバル教養科目群 (GLA・GLC) 開講数の推移



■ 2024年度GLA履修学生の比率



2024年度開講科目一覧

★: お茶の水女子大学との共同実施授業

担当教員	コースタイトル	Sセメスター	Aセメスター
グローバル教養科目 (GLA)			
Naomi Berman	Research and Inquiry for Social Change	○	★
Aurora Tsai	Racial and Linguistic Diversity and Inclusion	○	○
Sylvia Ejmont	Invisible Connections	○	
Stefanie Mack	Climate Repair	○	○
John Quayle	A Post-Mortem of the COVID-19 Crisis	○	
John Solomon Maninang	Bioactive Components in Food—Implications on Food Safety and Public Health in a Changing Environment	○	
Ian Wash	Introduction to Poverty and International Development	○	○
Isaac Tyrone Ghampson	Catalytic Processes for a Sustainable World	○	○
Alexandra Terashima	Model Organisms in Biomedical Research	○	
Ying Shan (Doris) Zhang	Intercultural Communication	○	
Simon Perry	Sociolinguistics in a Global Society	○	
Catherine Hansen	Writing About Gaming: Game Studies as Social Practice	○	
Christopher Nicklin	Language Acquisition	○	○
Tito Akindele	Medicinal Chemistry: From Drug Discovery to Market	○	
Richard Dietz	Reading Philosophy: An Introduction for Non-Philosophers	○	○
小原 優貴	Education and International Development	○	
Manuel Senna	Technologies of Resistance	○	○
Tom Gally	Japan As They Saw It	○	★

担当教員	コースタイトル	Sセメスター	Aセメスター
下山田 翔	Introduction to Sustainable Tourism	○	
Alex Bueno	History of the Japanese Environment: Architecture & Cities, Gardens & Landscape	○	
Candler Hallman	Human Rights Movements in the Modern World	○	
Eric Vanden Bussche	Disinformation, Fake News, and Post-Truth Politics in a Global Context	○	
Greg Dalziel	Everyday Nationalism	○	
Graham Peebles	Living a Good Life: The Philosophy of Well-Being	○	○
John Pazdziora	Fairy Tales and Gothic Stories: Reading Victorian Fantasy	○	
Incoronata Nadia Inserra	A Global Perspective on Controversial Moments and Memorials	○	○
Dennis Stromback	Japanese Philosophy and the Global World	○	
Leonard Sprague	Writing to Learn, Learning to Write: Identifying the pitfalls and possibilities of large language models such as ChatGPT	○	○
多田 恵里沙	Women in Science	○	○
船田 なつの	Exploring Global Englishes	○	
Raquel Moreno-Penaranda	Cultivating Well-being on the University Campus	○	
Raquel Moreno-Penaranda	The “SDGs” Contested		○
Eric Vanden Bussche	Maps, Border Disputes, and Conflict in East Asia		○
Candler Hallman	A Critical History of Terrorism		○
Catherine Hansen	Writing Games: Experimental Writing as Social Practice		○
Dennis Stromback	Japanese Social-Political Philosophy		○
Greg Dalziel	The Art of Attention		○
Erika D’Souza	Stereotyping Feminine Identity in International Media		○
Alex Bueno	Photographing Tokyo: Looking at One’s Place in the Urban Landscape		○
John Pazdziora	Third Culture Children’s Literature		○
船田 なつの	Developing International Friendships in Global Contexts		○
神島 智子	Infectious Diseases: why humans managed to eliminate only a few infectious diseases?		○
Jesús Alberto Pulido Arcas	Sustainability in Japanese Architecture		○
John Quayle	Plagues throughout History		○
Alexandra Terashima	The Gender Data Gap: exploring the lack of data about women and girls’ experience in life		○
John Solomon Maninang	Food Safety in Public and Environmental Health		○
Dipesh Kharel	Visualizing Japan: Doing Ethnography and Documentary Filmmaking with Your Smartphone		○
細川 尚子	Sustainability of Linguistic Diversity		○
各務 茂夫	Global Entrepreneurship Exercise		○
下山田 翔	Tourism and Justice		○
Kristopher McEown	Psychological Approaches for Improving Health and Well-being		○
Francesco Cangemi	Phonetics: The sounds of languages across the world		○
グローバルリーダー育成プログラム科目 (GLC)			
Sam Bamkin, Dipesh Kharel, 小原 優貴, Simon Perry, Sylwia Ejmont, Ying Shan (Doris) Zhang	グローバルリーダー育成プログラム科目 (GLC-I: リーダーシップ基礎)		○



国際総合力認定制度 (Go Global Gateway, GGG)

国際総合力認定制度は、すべての東京大学学部学生の国際的な学修や交流の機会への参加を後押しするものです。東京大学は「世界の多様な人々と共に生き、共に働く力」を国際総合力と名付け、大学生活を通じてすべての学生にこの力を伸ばしてもらいたいと考えています。本制度は、すべての学部学生の国際的な学びや体験を積極的に奨励します。一定の条件を満たした学生には「国際総合力認定証」が授与されます。

なお、国際総合力認定の要件のひとつとして、一定数のアクティビティレポート(学生が国際的な活動に参加した後に執筆するレポート)の提出を義務付けています。これを踏まえ、学生のアクティビティレポート提出を促す取り組みとして、2024年6月にレポート執筆ワークショップも開催しました。2024年度は、計40名の学生が国際総合力の認定を受けました。

短期プログラム

■ 東京大学 — アジア女性大学 (Asian University for Women) 合同サマープログラム



2024年7月29日から8月8日にかけてアジア女性大学から12名の学部学生を受入れ、東京大学の学部学生12名と共に、「身体・環境・サステナビリティ」“Body, Environment and Sustainability”をテーマとしたサマープログラムを実施しました。

学内外の専門家による講義では、ジェンダー、リプロダクティブ・ヘルス、持続可能な発展のための教育、グローバル・ヘルスと感染症、生物多様性、資本主義と感覚・身体性など、多岐にわたる分野を学び、プログラムテーマを多角的に考察しました。また、ファーストリテイリング財団*への訪問・ワークショップのほか、学内での映画鑑賞イベント、国際協力機構(JICA)や森美術館への訪問、千葉県木更津市の農場への日帰りエクスカージョンなど、キャンパス内外で多様な学びを経験しました。

最終日の8月8日には、プログラムの総括となるシンポジウムを開催しました。学生たちはポスター発表により10日間の学びの成果を共有したほか、基調講演者としてお迎えしたスプツニ子!氏(アーティスト/東京藝術大学デザイン科准教授/株式会社Cradle代表取締役社長)と共に、“Empowering Diversity with Technology”をテーマに活発なディスカッションを行いました。

異なる社会的・文化的背景を有する学生同士が互いの考えや経験、文化を共有することで、相互理解を深め、視野を大きく広げる機会となりました。

*本プログラムは、一般財団法人ファーストリテイリング財団からの支援のもと実施されました。

■ プリンストン大学との交流セッション／合同プログラム



東京大学－プリンストン大学交流セッション

2024年6月17日から7月4日にかけて、東京大学の学部学生16名とプリンストン大学の学部学生14名が参加する交流セッションが本郷キャンパスで実施されました。セッションの中で行われたフィルムナイトでは、グローバル教育センターのDipesh Kharel講師によるドキュメンタリー作品『ジャパニ〜ネパール 出稼ぎ村の子どもたち〜』を鑑賞し、学生たちは移民・難民・避難民の問題について意見を交わしました。

また、Dialogue at UTokyo GlobE (p. 12) も開催され、入学試験やジェンダーバランスなど、日本と米国の大学におけるさまざまな「違い」について参加学生同士の活発な議論が展開されました。

東京大学－プリンストン大学合同プログラム

2025年3月8日から18日にかけて、「People and Culture of Japan in the United States: Past, Present, and Future」をテーマとした合同ウィンタープログラムを実施しました。東京大学、プリンストン大学からそれぞれ8名の学部学生が参加し、東京大学ニューヨークオフィス、ラトガース大学、プリンストン大学で共に学びました。

プログラムでは、日本と米国の政治や経済、社会や文化に関して、また日米の人的交流の歴史などについて、さまざまな分野の専門家による講義が行われました。また、美術館への訪問やクラシック音楽の鑑賞など、インフォーマルな学習の機会も設けられました。11日間のプログラムで多くの時間を共に過ごした参加学生たちはさまざまな学びや経験を共有し、友情を育みました。

留学生と国内学生の交流



▲ Talk & Share! ～What is your favorite XXX? “Ep.1.1 Manga”

年間を通じて、留学生と国内学生の交流イベントを開催しており、新たな言語、文化、友人との出会いの場となっています。

2024年度に実施したイベント

GlobEフォト×エッセイコンテスト

Talk & Share! ～What is your favorite XXX?

茶道体験 Experience Japanese tea ceremony

留学生支援室

グローバル教育センター留学生支援室では、年間延べ4,000件前後の相談・問い合わせに対応し、留学生が安心して過ごし、学生生活・研究生活で力を発揮できるようにサポートしています。また、就職活動の流れや在留資格制度を理解しながら、各自が進路選択をしていくことができるように、来日直後からのキャリア支援にも力を入れています。

さらに、学生の多くが対面での活動を希望していることに合わせ、コロナ禍で浸透したオンラインの選択肢も残しつつ、2024年度は大半の活動を対面に戻しました。また、これまで別々に運営されてきた駒場地区での英語によるカウンセリング体制の見直しを行い、本郷地区と一体的な形で相談対応を行うことが可能となりました。

留学生やその学内関係者向けの各種相談や情報提供、問い合わせ対応

異文化／心理的適応、学業・研究、キャリア・日本での就職、人間関係、生活上のトラブル、日常生活に関する手続きなどについて、日本語、英語、中国語によるサポートを行っています。心理面の支援においては、相談支援研究開発センター各窓口など、学内相談窓口などとも連携しています。



■ 留学生対象のオリエンテーション(4月・10月)、フォローアップオリエンテーション

春・秋の入学時期に、学内外での生活に関する情報を日本語、英語、中国語で提供しています。入学から一段落した時期には、在学生の協力も得ながら、新たな疑問や情報を確認するフォローアップも行っています。

交流プログラムの運営

留学生が学内外の人々と出会い、日本社会とのつながりを深められるよう、言語交換プログラム、中国語茶話会、国内学生との交流会、地域企業の方々との日本語交流会を開催しています。



■ 国際交流会(International Meet-up)

フォローアップオリエンテーション実施後に、学内学生同士の交流の機会を提供しています。



■ 中国語茶話会(通年)

留学生と国内学生が交流する場として、隔週(本郷キャンパス)および月1回(柏キャンパス／グローバル教育センター柏支部と共催)実施しています。学生生活、趣味、進路・就職活動など幅広い話題について、中国語、日本語、英語などで話し合い、交流を深めています。

■ 言語交換プログラム(Sセメスター・Aセメスター)

学内学生同士が、言語を学び合いながら交流を深めるプログラムです。交流希望言語、所属キャンパス、趣味などをもとに、オンライン掲示板からパートナーを探します。交流希望言語として、留学生は日本語を、国内学生は英語を希望する人が多いです。

留学生の就職支援

卒業後、日本での就職を希望する学生が増加する中、日本特有の就職活動をしなが、グローバル人材としての能力を発揮できるよう、対面・オンラインによるセミナーを実施しています。国内・外資企業によるジョブフェアなどの大規模事業や企業人事参加のイベントを通じ、学内での留学生と企業との接点を増やすべく多様な事業を展開しています。

個別のキャリア相談では、日本語での就職活動に対する不安を持つ留学生や、情報を求める留学生のニーズに対応し、日本での就職における留学生特有の留意点に配慮したサポートも行っています。

■ 大規模事業

留学生のためのジョブフェア I・II

Global Career Fair I・II

Link to the World—外資系企業を知るためのGlobal Career Fair—

留学生のためのキャリアシンポジウム「留学生が日本で働くということ—企業人事の人と本音ディスカッション」

■ 参加&交流型セミナー

留学生のためのキャリアセミナー「企業を知る」(企業訪問型)

■ 知識提供型ガイダンス・セミナー

留学生キャリアガイダンス—これから就活・CV／履歴書・インターンシップ編—

留学生のためのキャリアセミナー「業界・企業を知る」



▲ 留学生のためのジョブフェア I・II

▼ 留学生のためのキャリアシンポジウム「留学生が日本で働くということ—企業人事の人と本音ディスカッション」



日本語コースの提供

日本語教育部門は、所属学部・研究科・研究所などを問わず、東京大学のすべての留学生、外国人研究者などを対象に、日本語コースを提供しています。配偶者の方が受講可能なコースもあります。レベルは入門者から上級者向けまで幅広く、また学習期間なども多様に設定し、ニーズ・学習スタイル・効率・ゴールを十分に考慮したコースの設計と運営を行っています。学内の各キャンパスからの受講のしやすさを考えて、授業はすべてオンラインで行っています。なお、海外の大学などに在学する学生を主な対象として短期的に開設する国際短期プログラムに参加する学生のみなさんにも、日本語学習のコースを提供しています。

2024年度には新たに入学前の留学生に対する有料の日本語プログラムを設計し、2025年3月から申請受付を開始しました。今後も、日本語学習機会のさらなる拡大・多様化を図ります。

2024年度提供コース・受講者数一覧

対象者	コース名等	Sセメスター		Aセメスター		合計	
		コース数	人数	コース数	人数	コース数	人数
学内構成員	一般日本語コース	42	501	38	497	80	998
	集中日本語コース	4	33	4	38	8	71
	短期日本語コース	7	88	6	136	13	224
	日本語スポット講座	7	78	8	147	15	225
	個別指導	—	96	—	106	—	202
学外者	国際短期プログラム向け各種コース	9	89	0	0	9	89

■ 一般日本語コース

忙しい留学生たちが週に数回日本語を学ぶためのコース。初級から上級までの各クラスのほか、「漢字」、「中級会話」などのクラスがあります。

■ 集中日本語コース

短期集中的に学習したい留学生のためのコース。レベルごとにポイントとなる内容をコンパクトに学習します。初級から中上級まで各クラスがあります。

■ 短期日本語コース

毎週定期的にクラスに通えない人や来日時期がずれた人のための、不定期に開講する1週間のコース。初級から上級までの各クラスがあります。

■ 日本語スポット講座

特定のテーマで1日～数日間だけ開講する講座。会話や漢字など、特定の内容に特化しているため、自身のレベルや関心に合わせて選んで受講することが可能です。

■ 個別指導

日本語教育センターの教員が、予約制で個別に1枠30分で日本語の指導を行います。日本語学習上の相談に応じたり、会話練習を行ったりします。

■ 国際短期プログラム向け各種コース

短期的に開設する国際短期プログラムに参加する学生を対象に、日本語学習のコースを提供しています。

2024年度はUTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC)、UTokyo Amgen Scholars Program、University of Tokyo Research Internship Program (UTRIP・東京大学大学院理学系研究科が実施) 向けに日本語コースを開講しました。

2024年度学内構成員向け日本語コース*受講者の内訳

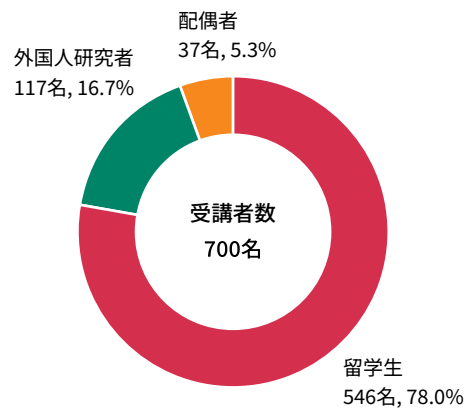
*個別指導を除く

■ Sセメスター

国または地域別

中国	298
フランス	47
米国	34
台湾	33
韓国	23
エジプト	18
インドネシア	17
カナダ	14
モンゴル	14
イタリア	13
フィリピン	13
ネパール	12
香港	11
英国	10
ミャンマー	10
その他	133
合計	700

属性別

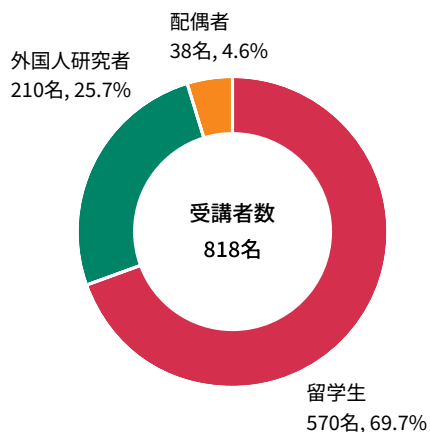


■ Aセメスター

国または地域別

中国	300
台湾	64
フランス	50
米国	39
インド	37
ドイツ	33
英国	19
ネパール	17
フィリピン	16
イタリア	15
マレーシア	15
カナダ	15
韓国	15
香港	15
エジプト	14
その他	154
合計	818

属性別



▲ 東京大学 — アジア女性大学 (Asian University for Women) 合同サマープログラムにおける日本語コースの様子

駒場支部の活動

グローバル教育センター駒場支部は、駒場地区（総合文化研究科・教養学部、数理科学研究科、生産技術研究所、先端科学技術研究センター）所属の留学生、外国人研究者および全学交換留学プログラム（USTEP）で来日し駒場キャンパスで学ぶ学生を主な対象として各種サポートを行っています。

窓口では日本での生活や大学生活における各種相談に対応しています。新学期には英語での新入留学生生活オリエンテーションや学生による駒場キャンパスツアー、PEAK*生を対象とした区役所での手続き補助、銀行口座開設サポートなどを実施しています。また、留学生支援室と連携し、留学生支援室が駒場地区の留学生を対象に提供している日・英・中国語でのカウンセリング業務（対面およびオンライン）をサポートしています。

このほか、留学生、外国人研究者と国内学生が交流できるような国際交流／日本文化体験イベントを年間を通して開催しています。2024年度は、毎年恒例で人気の高いスポーツイベントであるドッチビー大会や、季節が感じられる盆踊り&七夕交流会などの各種イベントを通して多くの参加者が新しい友人と出会い、交流を深めることができました。また、敷居が高いと思われる歌舞伎などの日本の伝統芸能を鑑賞するイベントに学生が無料で参加できる機会を設け、留学生や国内学生が気軽に日本文化／芸能に親しむことも可能にしています。

今後は、従来の国際交流／日本文化体験イベントを継続して実施していくとともに、留学生支援室と協働しメンタルヘルス関係のイベントも企画していこうと考えています。また、グローバル教育センターが開講する授業や各種イベントに関する駒場地区での広報活動なども行っています。

*PEAK: Programs in English at Komaba (英語で学士号が取得できるプログラム)

2024年度の実施イベント

4月	新入留学生生活オリエンテーション 学生による駒場キャンパスツアー
5月	ドッチビー&交流会
6月	歌舞伎鑑賞教室
7月	盆踊り&七夕交流会
9月	新PEAK生対象文京区役所での手続きサポート 新PEAK生対象ゆうちょ銀行口座開設サポート
9月・ 10月	新入留学生生活オリエンテーション 学生による駒場キャンパスツアー
10月	ドッチビー&交流会
12月	歌舞伎座探訪・歌舞伎鑑賞



柏支部の活動

グローバル教育センター柏支部は、柏地区（新領域創成科学研究科、宇宙線研究所、物性研究所、大気海洋研究所、カブリ数物連携宇宙研究機構、空間情報科学研究センター、生産技術研究所）に所属する留学生や外国人研究者、教職員のキャンパス生活を支えています。2024年度、柏キャンパスの外国人構成員は1,000名を超え、約3.5人に1人が外国籍という国際色豊かな環境です。柏支部は、この特色を活かし、多様な人々が学び、研究し、成長できる環境の整備に取り組んでいます。

活動内容は、住居支援、生活サポート、国際交流・日本文化体験イベント、English Discussion Clubの運営に加え、大学職員が異文化理解を深め、外国人への窓口・メール対応の方法を学ぶ勉強会も実施しました。交流プログラムとして、1対1文化交流プログラム*や言語交換プログラム、留学生支援室と毎月共催する中国語茶話会を通じて、継続的な交流を促進しました。また、文化・交流事業として書道教室や英語落語鑑賞会を地域ボランティアや地元住民と協力して行い、地域との交流を推進しました。歌舞伎鑑賞教室では、国内学生が案内するオプションルツアーを毎年企画し、参加者は日本文化を体験し、交流も生まれました。

柏キャンパス一般公開では「Back to My School Days」をテーマに、留学生がふるさとの学校生活を紹介し、歌や楽器演奏、アラビア文字やヘナタトゥー体験など多彩なプログラムを来場者と楽しみました。さらに、年2回のリサイクルバザーでは、学内外から提供された物品を新規渡日者に無償で提供し、生活支援を行いました。今後も柏支部は、学内外の多様な関係者と協力し、柏キャンパスの国際化を推進していきます。

*柏キャンパスで学ぶ留学生や外国人研究者・教職員、その家族と日本人ボランティアが1対1で交流するプログラム

2024年度の実施イベント



4月	留学生・外国人研究者対象リサイクルバザー English Discussion Club ガイダンス
5月	中国語茶話会—新入生茶話会— 歌舞伎鑑賞教室
6月	1対1交流 交流会 中国語茶話会—端午茶話会—
7月	English Discussion Club Summer Special 2h×3 days English Discussion Club 学期末交流BBQ
9月	中国語茶話会 書道体験教室（三井V-Net共催）
10月	留学生・外国人研究者対象リサイクルバザー English Discussion Club ガイダンス 中国語茶話会—新入生茶話会—（毎月第4火曜日開催） 柏キャンパス一般公開（現地開催）
11月	英語落語鑑賞会（三井V-Net主催、グローバル教育センター柏支部・図書館共催） 中国語茶話会（毎月第4火曜日開催）
12月	中国語茶話会（毎月第4火曜日開催）
1月	中国語茶話会—新春茶話会—（毎月第4火曜日開催）
2月	中国語茶話会（毎月第4火曜日開催）
3月	日本文化体験バスツアー 和太鼓ワークショップ 中国語茶話会（毎月第4火曜日開催） English Discussion Club Farewell Party

東京大学全体の学生の国際的流動性

海外への派遣学生数、海外からの受入学生数

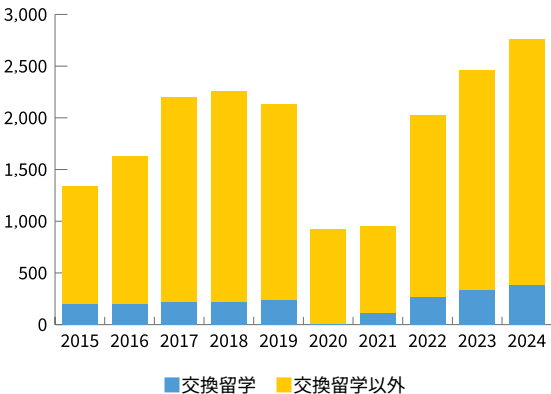
ここで示す派遣・受入とは、学生が一時的に所属元の大学を離れ、協定校等において、学位取得を目的とせず留学プログラム等に参加する形態を指します。

派遣学生: 交換留学やサマープログラム等により短期間(1年以内)東京大学から海外に派遣される学生

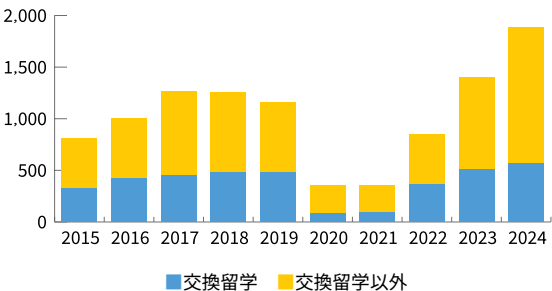
受入学生: 交換留学やサマープログラム等により短期間(1年以内)海外から東京大学に受入れる学生

	年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
派遣学生数	交換留学	199	197	220	221	240	15	107	266	329	380
	交換留学以外 (サマープログラム等)	1,133	1,430	1,978	2,040	1,895	910	846	1,762	2,131	2,379
	計	1,332	1,627	2,198	2,261	2,135	925	953	2,028	2,460	2,759
受入学生数	交換留学	323	420	451	475	484	84	92	360	511	563
	交換留学以外 (サマープログラム等)	488	589	820	775	677	270	266	489	895	1,322
	計	811	1,009	1,271	1,250	1,161	354	358	849	1,406	1,885

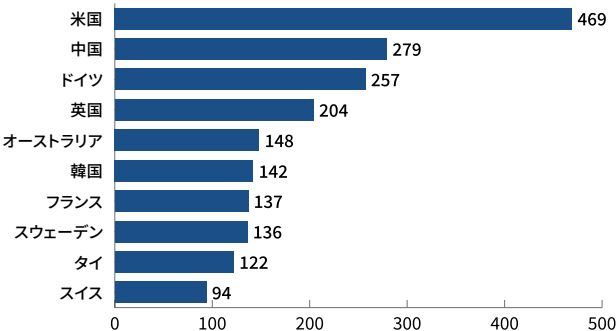
■ 派遣学生数の推移



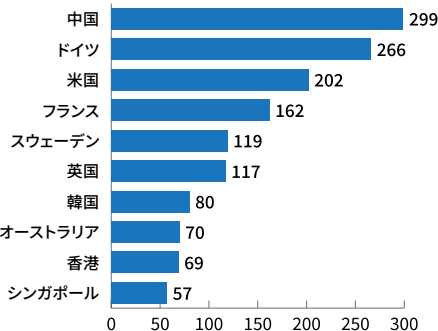
■ 受入学生数の推移



■ 派遣学生の派遣先 上位10ヶ国・地域 (2024年度実績)

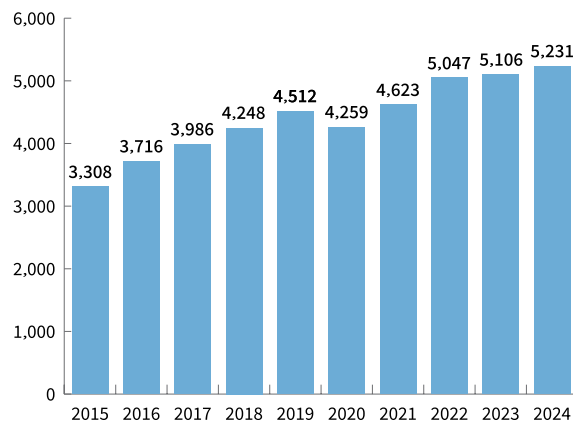


■ 受入学生の所属大学等所在地 上位10ヶ国・地域 (2024年度実績)

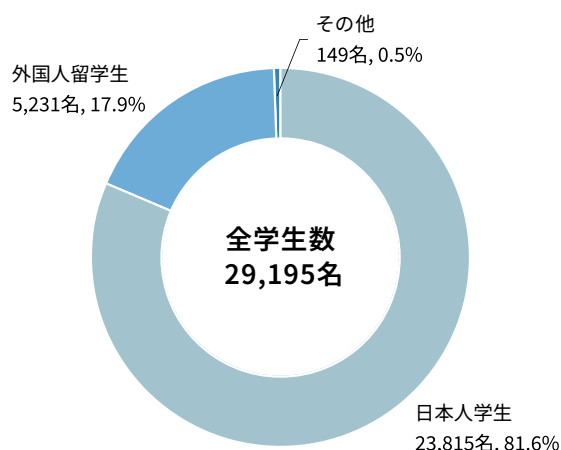


東京大学全体の外国人留学生数 (2024年11月1日)

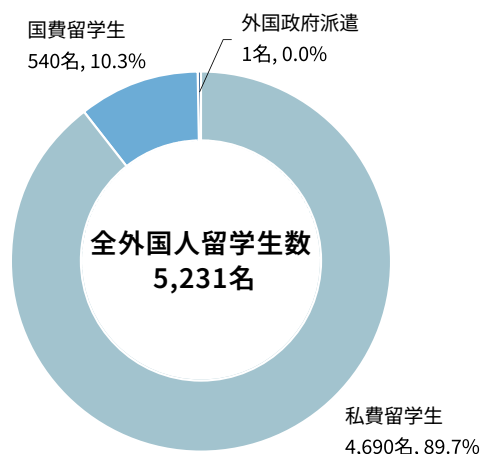
■ 外国人留学生数の推移



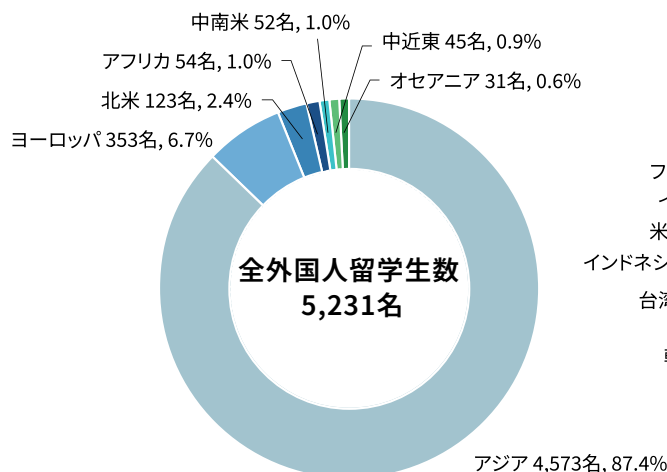
■ 全学生数に対する外国人留学生の比率



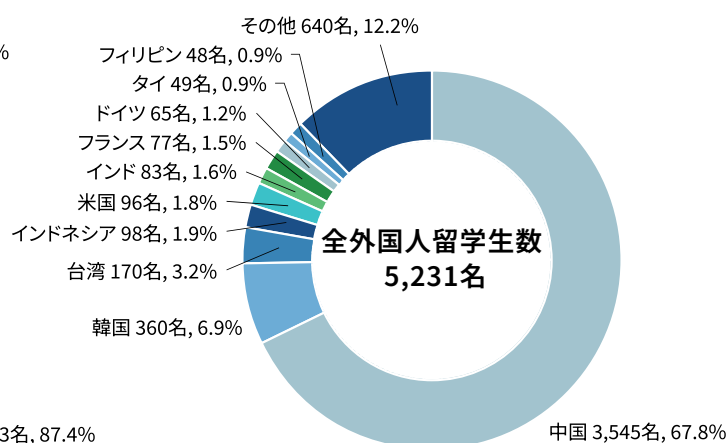
■ 外国人留学生種別内訳



■ 外国人留学生地域別内訳



■ 外国人留学生国または地域別内訳



GlobEへのご支援について

Global Leadership Program (GLP) へのご支援

東京大学グローバルリーダー育成プログラムは、趣旨にご賛同いただいた下記の企業・財団様のご後援・ご協力によって支えられています。ご支援は全額、目的指定寄附である「グローバルリーダー育成基金」として受入れ、Global Experiencesに参加する学生への奨学金として活用しています。

▶ プログラムの詳細は pp. 24-25

AsahiKASEI



公益財団法人
Tazaki財団

'TORAY'

NISSAN
MOTOR CORPORATION

日本M&Aセンター



Go Global 奨学基金

Go Global 奨学基金は、2週間程度の短期留学プログラムや、交換留学に代表される1年以内の中長期留学など、東京大学から世界に飛び立ちチャレンジする学生を経済的に支援する奨学事業です。この基金は、長い間多くの個人の方々からの温かいご寄附によって支えられてまいりました。

皆様からのご支援は、学部学生を中心とする参加学生のプログラム参加費や、奨学金として活用いたします。一人でも多くの学生がグローバル体験を積み、世界の舞台に飛び立つため、皆様のご支援をお願いいたします。



Quick Links



東京大学グローバル教育センター
ウェブサイト

<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>



東京大学 海外留学情報
(Go Global ウェブサイト)

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/index.html>



University-wide Student
Exchange Program (USTEP)
ウェブページ

<https://www.u-tokyo.ac.jp/en/academics/ustep.html>



UTokyo Global Unit Courses
(UTokyo GUC)
ウェブページ

<https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/guc.html>



UTokyo Amgen Scholars Program
ウェブページ

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/amgen_program.html



グローバル教養科目群
(Global Liberal Arts Courses, GLA)
ウェブページ

<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/globalliberalarts.html>



グローバルリーダー育成プログラム-I
(GLP-I)
ウェブページ

<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/glpi.html>



グローバルリーダー育成プログラム-II
(トライリンガル・プログラム)
(GLP-II (TLP))
ウェブページ

<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/glpii.html>



国際総合力認定制度
(Go Global Gateway, GGG)
ウェブページ

<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/ggg.html>



東京大学 留学生支援
ウェブサイト

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/>



東京大学グローバル教育センター
日本語教育部門
ウェブサイト

<https://globe.u-tokyo.ac.jp/nkc/ja/index.html>